

別記様式第1号

スマートフィーディング実証事業実施計画書兼助成金交付申請書

番 号
年 月 日

一般社団法人日本草地畜産種子協会
会 長 野 口 政 志 殿

所在地
牧場（協議会）名
代表者氏名 印

スマートフィーディング実証事業について下記のとおり参加したいので、スマートフィーディング実証事業実施規程第6の1の規定に基づき申請します。

記

1 技術実証の内容

チェック	区 分	チェック	区分	チェック	区 分
	国産粗飼料利用タイプ				
	国産濃厚飼料利用タイプ		新 規		
			継 続		①1頭当り給与量を増加する ②給与する家畜頭数を増加する

注1：該当する区分のチェック欄に○を記入する。

注2：前年に国産濃厚飼料給与を行っている場合は継続に○を記入し、①②を選択する。

タイプ名	チェック	技 術 実 証 の 内 容
国産粗飼料利用タイプ		(1)放牧の導入又は放牧の改善
		(2)粗飼料()の高品質化、高栄養化
		(3)稲 WCS 等の多給
		(4)自給粗飼料()と食品製造副産物等()の組合せ
		(5)その他()
国産濃厚飼料利用タイプ		(1)国産濃厚飼料()を生産して家畜へ給与
		(2)国産濃厚飼料()を耕種農家等から購入して家畜へ給与
		(3)国産濃厚飼料()を使った TMR を購入して家畜へ給与
		(4)その他()
現地検討会等	○	(1)協議会等の実証展示支援体制の整備及び概要書等の作成、配布
		(2)実証展示内容を普及するための現地検討会等の研修会の開催
		(3)実証展示内容を普及するための看板等の設置

注1：該当する技術実証のチェック欄に○を記入する。

注2：配合飼料の代替として給与する粗飼料や国産濃厚飼料等の名称を()に記入する。

注3：その他にあっては()に具体的な技術実証の内容を記入する。

注4：実証展示支援体制の整備及び概要書等の作成、配布の実施は必須とする。

2 事業の目的（技術実証しようとする目的を記述する。）

3 地域畜産の概況

（地域における、実証事業の普及の見込みについても記述すること。）

4 実証に要する（した）経費総括表

事業項目	総事業費	負担区分		備 考
		助成金	事業参加者	
実証展示				
現地検討会				
合計				

5 実証農場の概要（畜産経営体記載）

名称								所在地			
家畜飼養頭数（頭）	乳用牛			肉用牛			その他	合計			
	成牛	その他		繁殖牛	肥育牛	その他	〇〇〇				
草地等面積（ha）	採草地	放牧地	兼用地	草地計	飼料畑	その他	合計				
労働力（人）			所有施設（棟）			所有機械（台）					
家族	雇用	計	畜舎	農機具庫	その他	トラクター	作業機	その他			

[5 実証農場の概要（TMRセンター等記載）]

名称								所在地			
飼料収集体積（ha）	採草地	兼用地	草地計	飼料畑	田	その他	合計				
労働力（人）			所有施設（棟）			所有機械（台）					
家族	雇用	計	作業棟	農機具庫	その他	トラクター	作業機	その他			

6 スマートフィーディング技術実証計画（実績）

（1）実証技術の概要

(2) 配合飼料削減及び国産粗（濃厚）飼料給与計画（実績）（実証展示に係るものについて記載）

対照区（現況）			実証区（計画（実績））			配合飼料削減率％ ((A - B) / A) × 100		
1日1頭当たり配合飼料 給与量A			1日1頭当たり 配合飼料給与量B (1日1頭当たり代替飼料 給与量)					
畜種	給与量	頭数	畜種	給与量	頭数	畜種	削減量	削減率
〇〇牛	〇kg/頭・日	〇頭	〇〇牛	〇kg/頭・日	〇頭	〇〇牛	〇kg/頭・日	〇%
			(代替飼料(〇〇〇〇) 給与量)					
			〇〇牛	〇kg/頭・日	〇頭			
対照区（群）と実証区（群）における乳量、増体等の違い（実績報告時のみ記載）								
上記配合飼料削減及び国産粗（濃厚）飼料給与計画（実績）の対照区（現況）と実証区の違いを確認する。								
協議会等名称								
代表者氏名							印	

注1：国産濃厚飼料タイプの場合、実証する牛群等の規模については、個人経営の場合はおおむね50頭、法人経営の場合はおおむね100頭を上限とする。また、1日1頭あたりの国産濃厚飼料給与量はおおむね5kgを上限とし、実証の給与期間は180日を上限として算出する。

注2：代替飼料は、国産粗飼料タイプの場合は配合飼料の代替として給与する飼料イネWC S等自給飼料とし、国産濃厚飼料タイプの場合はイアコーンサイレージ等の国産濃厚飼料をいう。なお、代替飼料名は「(代替飼料(〇〇〇〇) 給与量)」の「〇〇〇〇」に記載する。

注3：対照区と実証区の違いは実証後の実績報告時に記載する。

注4：上記配合飼料削減及び国産粗（濃厚）飼料給与計画（実績）の対照区（現況）と実証区の違いを確認する作業については、(4)のスマートフィーディング技術実証展示支援体制の役割分担のうち、「事業計画（実績）の確認」を担当する組織が行うものとし、「代表者氏名」は当該担当する組織の代表者氏名を記述するものとする。ただし、当該代表者が事業参加者との場合は、事業参加者以外の組織に属する者とする。
なお、「対照区（現況）と実績の違い」とは、配合飼料給与量及び代替飼料（国産粗（濃厚）飼料）給与量の実証前と実証後の違い（(配合飼料にあつては削減する（した）量、代替飼料にあつては拡大する（した）量（国産濃厚飼料については水分率を用いて換算した重量））とする。

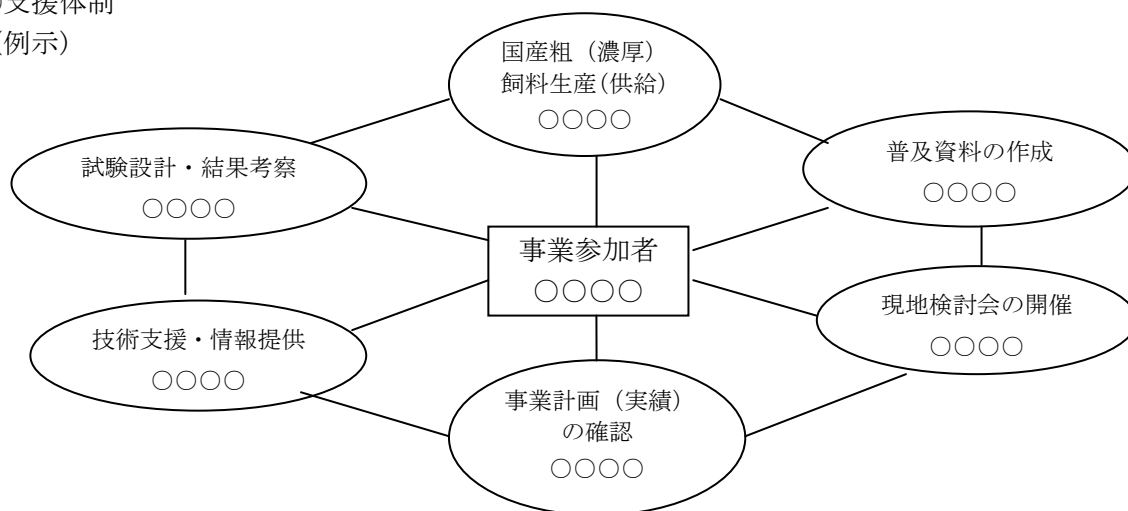
(3) モデル実証現地検討会計画（実績）

開催時期	開催場所	参加予定人数	内容

(4) スマートフィーディング技術実証展示支援体制

①支援体制

(例示)



②支援組織一覧

(例示)

No.	支援内容	担当する組織の名称	備考
1	国産粗（濃厚）飼料生産（供給）	〇〇〇〇・・・	
1	実証展示の設計・結果考察	〇〇〇〇・・・	
2	粗飼料の分析	〇〇〇〇・・・	
3	技術支援・情報提供	〇〇〇〇・・・	
4	現地検討会の開催	〇〇〇〇・・・	
5	普及資料の作成	〇〇〇〇・・・	
6	事業計画（実績）確認	〇〇〇〇・・・	

7 実証に要する（した）経費の配分計画（実績）

単位：円

助成対象 経費	経費の内訳	総事業費	負担区分		算出基礎
			助成金	事業参加者	
実証展示	実証用資材費 (実証のために必要な、国産粗飼料、国産濃厚飼料、牧柵資材、肥料、種子等) 展示用看板 通信運搬費 消耗品費・・・				※数量×単価×日数等 総事業費の額の根拠となる計算式を記載する。
小計					

助成対象 経費	経費の内訳	総事業費	負担区分		算出基礎
			助成金	事業参加者	
現地検討会 等	委員旅費 謝金 消耗品 印刷費 〇〇〇・・				
小計					
総合計					

注1：国産粗飼料利用タイプの場合、実証展示に要する(した)助成金額は、実証展示を実施することにより新たに必要となる増加費用(掛かり増し経費)であって、その助成金額は合計額の1/2以内とし、その上限は80万円以内とする。

注2：国産濃厚飼料利用タイプの場合、実証展示に要する(した)助成金額は、実証展示を実施することにより増加する(した)国産濃厚飼料給与量であって、その助成金額は給与量1kg当たり20円以内とし、その上限は予算の範囲内で別途協会が定めるものとする。

注3：算出基礎として実証期間を使用する場合、期間は180日間を上限とする。

注4：実証に要する経費の助成金は別途協会が内容を審査して通知する。

注5：算出基礎の欄の「数量」のうちの国産粗(濃厚)飼料については、国産粗(濃厚)飼料の実証区で給与する(した)量から、現況(対照区)で給与する(した)量を差し引いた数値(拡大分(国産濃厚飼料については水分率を用いて換算した重量))がわかるように記載する。

8 実施期間(完了)年月日

平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日

(実証期間の完了期限は、原則として平成28年12月末日とする)

9 添付資料

- (1) 協議会にあっては規約及び会計規程。
- (2) 実証展示場所の分かる牧場の地図。
- (3) 事業実績報告にあっては、実証展示の状況が分かる写真、取組みの紹介の概要書又はパンフレット等の成果品、各経費の算出基礎となった領収書等の証拠書類。)
- (4) 国産濃厚飼料給与タイプにあっては、参考として今後3年間のスマートフィーディング実証計画により見込まれる国産濃厚飼料の給与量。
- (5) その他会長が指示した書類。

別記様式第2号

スマートフィーディング実証事業変更実施計画書兼変更助成金交付申請書

番 号
年 月 日

一般社団法人日本草地畜産種子協会
会 長 野 口 政 志 殿

所在地
牧場名
代表者氏名 印

平成 年 月 日付け○日草種協第 号で承認を受けたスマートフィーディング実証事業に係る実施計画を変更したいので、スマートフィーディング実証事業実施規程第6の3の規定に基づき申請します。

記

注： 別記様式第1号に準じて作成すること。この場合、実証に要する経費については、変更前を上段に（ ）書きで、2段書きとすること。

別記様式第3号

スマートフィーディング実証事業概算払請求書

番 号
年 月 日

一般社団法人日本草地畜産種子協会
会 長 野 口 政 志 殿

所在地
牧場名
代表者氏名 印

平成 年 月 日付け○日草種協第 号により助成金の交付決定通知のあった
スマートフィーディング実証事業について、下記のとおり金 円を概算払によ
り交付されたく、スマートフィーディング実証事業実施規程第6の4の(1)の規定に基づき、
申請します。

記

1 概算払請求額

区分	交付決定		事業遂行状況 (平成 年 月 日現在)			既概算払 受領額⑤ =② × %	今回概算払 請求額⑥= ②× %- ⑤	残 額 ⑦ = ② - ⑤-⑥	備考
	事業費 ①	助成金 ②	事業費 ③	助成金	事業出来高 ④=③/①				
実証展示					%				
現地検討 会					%				
合計									

注：それぞれの事業項目ごとに記載することとし、請求時点での事業費の概算払必要額の積算根拠として、月別の支出実績及び支出計画を添付すること。

2 振込先

〇〇銀行 〇〇支店 〇〇預金 口座番号〇〇〇〇 口座名義〇〇〇〇 (フリガナ)

別記様式第4号

スマートフィーディング実証事業実績報告書

番 号
年 月 日

一般社団法人日本草地畜産種子協会
会 長 野 口 政 志 殿

所在地
牧場名
代表者氏名 印

平成 年 月 日付け○日草種協第 号により助成金の交付決定通知のあったスマートフィーディング実証事業について、下記のとおり実施したので、スマートフィーディング実証事業実施規程第7の1の規定に基づき、報告します。

(なお、既に交付決定のあった助成金 円との差額 円の支払いを請求します。)

記

(別記様式第1号に準じて作成することとし、計画額を()書きで上段に、実績額を下段に記載すること。)

別記様式第5号

平成 年度スマートフィーディング実証事業に係る
仕入れに係る消費税等相当額報告書

番 号
年 月 日

一般社団法人日本草地畜産種子協会
会 長 野 口 政 志 殿

所在地
牧場名
代表者氏名 印

平成 年 月 日付け○日草種協第 号により助成金の交付決定通知のあった
スマートフィーディング実証事業助成金について、スマートフィーディング実証事業実施規程
第10の3の規定に基づき、下記のとおり報告します。

なお、併せて助成金に係る仕入れに係る消費税等相当額金 円を返還します。

記

- | | | |
|---|---|---|
| 1 補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）第15条
の補助金の額の確定額（平成 年 月 日 日草種協第 号による助成金額の確定通知
額） | 金 | 円 |
| 2 助成金の額の確定時に減額した仕入れに係る消費税等相当額 | 金 | 円 |
| 3 消費税及び地方消費税の申告により確定した仕入れに係る消費税等相当額 | 金 | 円 |
| 4 助成金返還相当額（3-2） | 金 | 円 |

（注）内訳資料、その他参考となるものを添付すること。